

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

まだ10時15分ですので、おはようございます。

今回、一般質問をするに当たり、いろいろと勉強はしてきたつもりでありますけれども、いかんせん自分が今回出しました質問の内容については、1番が図書館の今後のあり方について、そして2番目が学校教育の今後について、3番目が市長の政治姿勢についてということで一般質問を出しましたけれども、もう十重二十重に囲まれて、もう私の質問する場はないのかなというような感じでおります。

それで、私は通常の一般質問を出すときにどういうふうなやり方をするかということ、質問の聞き取りは、来ていただくのではなくて、まず自分が行ってその場で職員さんと親しく顔を見合わせながら質問をとりたいたいというのが私の気持ちなんです。しかし、今回は朝余りにも早かったものですから、まだ朝礼があっていて、会派室のほうで聞き取りをさせていただきました。なぜかということ、朝礼に迷惑をかけたら本当に皆さん方に失礼かなと思いつつしたんですけれども、そして、その中で、話をさせていただく中で、こういうふうなやり方、こういうふうな質問をしたいということを出してございましたけれども、その中で指導をいただきながらしたときに、こういうふうな言い方がいいんじゃないですかということ本当に親切に指導をしていただきました。ところがどっこいあけてみたら全てもろかぶり、全部自分の言うことはもう言うことがない。これはどがんすつか。そのときに私がたまたま思ったことは、自分としては職員さんを本当に信用して、職員さんにもう頼りに言ったつもりです。しかし、まだまだですね、人間。信用ばされておらんやった。（発言する者あり）

本当に信用されておらんやったと思うぎ、悲しいやら寂しいやら。これはどがんすつとかなど。やっぱり今後、自分を本当に戒めて勉強ばして、そして職員さんとの対話を努めて今後の武雄市の発展、そして住民の福祉の維持向上を目指し、一般質問を終わりますと言いたいくらいの心境ですけれども、そういうわけにもいかず、残された90分の自分の持ち時間をフル活用して一般質問を始めたいと思います。

まず、第1問目の図書館の今後のあり方についてということで質問を出しております。

そしたら、きのうおととい、3番議員の上田議員やったですかね、田代酒造跡の話がありましたね。そいぎ、田代酒造の話があったときに、購入が8,000万円かかりましたよと。購入は8,000万円です。しかし、今現在の維持管理費はそいぎどんくらいですかと聞いたわけですね。そいぎ、年間で約42万円、購入からもう17年ばかりたっておると。ということは、もう700万円ぐらいの維持管理費等々も要っています。その維持管理費が要ると、それを使うにはどうするんですかと。そいぎ、補修はどうすつとですかと。いや、補修てんなんてん、補修はですくて、8,000万円かかあですもんね。補修はしないにしてですよ、例えば、8,000万円かけて購入をした。その8,000万円だけをとったときに、私はこう考えたんです。8,000万円のお金があったら、武雄市の道路の補修、舗装の補修をしたら平米当たりどんくらいか

かあですかて聞いたら、いや、平米じゃなし、メートルで教ゆっけんで。4メートルの道路幅で1メートル道路を舗装する。大体1万6,000円ですもんね。そいぎ、国の補助はどがんなつとおとやて。昔は国、県で3分の1、3分の1で3倍ぐらいできよった。しかし、今、県は銭持ちんされんけんくんされんですもんね。2分の1補助ですよ。仮に2分の1補助をしても幾ら行かるっか。10キロ。市長が走っているて言っている距離が何キロかわかりません。歩いたり走ったりやっけんですね。走っておる距離は余り大したことないと思うですけれども、それでも10キロですよ、4メートル幅で。

何ば私が言いたかかというぎですね、そういうふうにして補修せんば使われんごたあところばほたつとって維持管理費まで使いながら、この当時の皆さん方、私はちょうどそのときに休憩時間でありまして、いませんでした。（発言する者あり）いえいえ、そんなことはありません。休憩時間であって、いませんでした。なぜその当時の人たちが、がん無駄なことを容認をしたのか。そして、本題に入れば、図書館の今回のTSUTAYAに対しての委託、何でこれだけ問題にならなければいけないのか、不思議でならない。（「そうだ」と呼ぶ者あり）

我々誰が考えてもそう思われませんか。市長、その辺についてどう思われますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議決の意味というのはやっぱり大きいんですよ。8,000万円でその当時に議決に参加された旧武雄市議会の皆さんたちには猛省を促したいと思いますね。しかも、これで年間40万円ですよ、それが17年間なんなんとするということについてどういうふうにお考えなのか、僕は逆に聞いてみたいですよ。そういったことをせずして——病院問題も一緒なんですよ。リコールしたりとか、住民監査請求を議員が主導したりとか、もう僕から言えばむちゃくちゃですよ。谷口攝久議員さんを初めそうなんですけれども、それも総括を聞いてみたいですよ。私は市に損害を与えている、あるいは与える可能性があるということで僕は受けているんですよ。しかし、例えば、病院問題だったら、この部分についてはもう黒字が出ているんですよ。きのう忘年会で言いよんさったですもんね、山口昌宏議員さん。ですので、そういう意味からして、余りにも武雄市議会の一部の議員さんにおかれては、その総括がなさ過ぎ。やっぱりそれがないと政治って信用されないと思いますよ。そういう意味では、先ほど山口昌宏議員さんがおっしゃったことについては、私は全くそのとおりだと、そのように思います。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

本題といたしますか、ちょっと入る前に、きのうの佐賀新聞を踏まえてのきょうの佐賀新聞の内容ということで、きのうは、もう蘭学館はやめるのではないかというような見出しがあった。しかし、きょうまたこの新聞の中で見ていたら、謝罪とはいかなくても、やっぱり閉鎖というのは不適切な表現ではなかったかなというような内容の謝罪文というか、佐賀新聞の記事が載っておりましたので、この点について、きのう市長としてはもう二度と佐賀新聞は読まんと。私は佐賀新聞をとっておりますので、何ら佐賀新聞の記者の方は心配要りませんけれども、市長としてこの辺についてどう思われるのか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

読まないと言っていましたけれども、きょう佐賀新聞読みましたよ。ちょっと載っているかなと思って、そしたらやっぱり載っていて、内容からすれば、これは苦しい立場だと思うんですよ。どなたが書かれたか知りませんが、私を立て、佐賀新聞の見出しを立て非常に苦しいお立場で、言っていることそのものは僕はちょっと意味不明だなと思ったんですけど、ただ、これ勇気要りますよ。ちゃんと経緯を書いて、最後おっしゃったように謝罪ととれるようなことを書いてくださったので、僕はこれは受け入れたいと思います。本当にこれは偉い。佐賀新聞は変わったなと思いますね、本当に。ですので、またあしたから、それで、あそこね、「読者の声」がいいんですよ。例えば、武雄市在住の野崎さんという方がいらっしゃるんですけど、あそこにいつも載るんですよ。だから、「読者の声」のセレクトがすごくやっぱりいいんですよ。だから、そういった意味でも、僕は佐賀新聞一番信用していますので。それで、きのうちょっと僕も大人げなかった。やっぱりさすがにこれに対する批判もありました。ですので、これについてはちょっと不快な思いをされた皆さんたちもいらっしゃいますので、これは私がおわびをしたいと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

〔19番「はい」〕

あしたからまた元気に読みます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということで、市長も一步一步大人になっていくのかなと思っております。

では、本題に入りたいと思います。

図書館、本当はこういうふうな質問をするつもりじゃなかったんですけども、もう私の質問の内容がありませんので、変えて質問をさせていただきたいんですけども、我々臨時議会をする前に図書館の民営化についていろんな方から公開質問状等をいただきました

ね。特に井上一夫さん、山口何々さんという方から公開質問状という形でいただきました。そして、そのときに私は井上さんのところまで行って、もし何かあったら連絡を下さいね、そしたらこっちから出向きましょうという話で戻った。そして再度、議長に対しての何か質問状がまた来たわけでしょう。そういうふうな中で、しからば、我々が議会として臨時議会を開いてこのTSUTAYAに対する問題を審議をし、討論をし、採決をし、その場におられたのはどなたでしょうか。武雄さんという方は最初から最後までおられました。しかし、当事者の井上一夫さんの姿は何にも見ておりません。ましてや、その後、武雄市が皆さん方とお話を聞くための場所を開いた。そこに来て、武雄さんという方は、蘭学館は残してほしい、武雄の歴史は本当に大事なものだから残してほしいということを言われた。その場にも井上一夫さんは見えてない。見もせん、聞きもせん、こういうふうな人がこういうふう公開質問状なんて出すなんていうのはもってのほかだと思えるんですけども、市長いかが思われますか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、もってのほかだと言うつもりはありません。これは市民がやっぱり認められるここは権利だと思うんですよ。だけど、権利の裏腹には義務があるんですよ。やっぱりそう出す以上は我々が彼の日程に合わせて説明会とかやっているわけですよ。しかし、それでも出てこない。あるいは、我々が知らないところでいろんなことをわあわあ言っているわけですね。これはやっぱりルール違反だと思いますよ。ですので、やっぱり思いました。信じる者は救われないと、そのように思いました。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

これちょっと紹介ですけども、「ガイアの夜明け」といって、今週の火曜日午後10時からテレビであってしまして、その中で何となく見よったじゃなくて、私は実は寝ていたんです。もう眠たかったけん、さあ寝ようって。孫が来て、TSUTAYAのあいよおばいて、テレビであいよおばいて。どこのな、代官山の。そいぎ何て書いてあったか。団塊の世代をターゲットに大人、TSUTAYAの新たな接客とは。いろんな階級とまではいかないかもわかりませんが、いろんな人たちがTSUTAYAに就職をされた。今まではバイク専門の経営者やら、あるいは旅行ライターやら、さらに音楽、CDのプロデューサーなどこの人たちがプロフェッショナルとしてTSUTAYAに勤められました。そして、新たな展開をされておりますというのが「ガイアの夜明け」で火曜日の午後10時からの中であってました。

なぜ武雄の図書館がここまで皆様方に、武雄市民にとって本当にいいことをしよう。例えば、スターバックスはコーヒー屋さんですよ。スターバックスでコーヒーを飲みたい、それだけでもいいじゃないですか。そして、その帰りに本でも見て帰っか、それでもいいじゃないですか。

〔市長「そうです」〕

それを一部の方たちが、なぜここまで言わなければいけないのか。市長が例えば、蘭学館を粗末にしますよ、ないがしろにしますよと言うたのであれば、それはやっぱり許されないことでしょう。しかし、そうじゃないわけでしょう。歴史は歴史として先人たちがつくってきたことですから、やっぱり我々も市長も含めて我々市民全体が後世に残さなければいけない、誰でも思いは一緒だと思う。それをあえてここまで反対をされる、不思議でなりません。

ということで、ずっと考えよったとです。そして、市長ともいろいろと話をする機会がありました。そして、私の結論に達したとは、今回の反対は、まだずっと市民病院のあの反対は引っ張ってきよおとやなかか。なぜそう思ったかというたら、医師会館で説明会をしますよ。文化会館あのように広かところのあいととですよ。そいばあえてあそこでせんばらん理由というのは何もなかったと思うわけ。

それともう1つ重大なことは、やっぱり市長が好かれとらんやったとかにやて。その方たちがやっぱり反対してしよんさつとかなど。

それでもやっぱり51%以上、市長好きと言うてくれれば何とかかなと思っておりますけれども、その点について市長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに僕は好かれるタイプじゃないんですよ。集団行動できないし、協調性はありませんし、友達の増減はありますけど、ほぼゼロですしね。本当にそれは困ったものだと思いますよ。しかも、いろんなマスコミに通じても歯にきぬ着せぬ発言をして、かつ偉い人たちにもわんわん言いますので、非常に扱いにくいというのはよくわかります。ただし、やっぱりそうであったにしても首長というのは決断しなきゃだめなんです。決断を。市民のことを、きのう黒岩幸生議員からもありましたけれども、市民のことを考えずして選択をするときは楽な選択のほうがやっぱり楽なんです。何もしないのが一番いいんですよ。次の選挙のことを考えて有権者の皆さんたちの顔を見て、にこにこ笑っていたほうが楽なんです。しかし、それだと武雄市が沈没します。病院問題しかり、この図書館問題もしかり、行政課題だってしかり。だから、もう一身に嫌われ役は山口昌宏議員と僕で任じましょう。お顔もそういう顔されていますので。だから、そういう思いからすると、私はこれは仕方ないと思っています。そうは言っても、私、もう少し人間的にやっぱり改善する必要があるだろうと、そ

れは思いますので、そこはやっぱり諸先輩のアドバイスをいただきながらそこは改善をしたいと思っております。ですので、この前も言いましたけれども、「AERA」の「日本を立て直す100人」に選ばれたときに一番多かったのは、おまえの性格を立て直せということは肝に銘じていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

だからこそ武雄市長樋渡啓祐は日本でも橋下市長の次に有名な市長になった。

そして——今、褒め言葉です。そして、武雄市という名前が全国に売れた、これは事実。だから、皆さん方、与党、野党を問わず温かい目で、戒めるところは戒めてやっぱり前に進む、絶対後ろに下がらないで前に進もうという気持ちを持ってほしいなと——皆さん方ですよ——と思って、次の質問に移りたいと思います。

次の学校教育の今後についてということを出しておりましたけれども、なかなかこれが難しゅうして、教育長さん、市長、あるいは教育部長さんと話をしよる中で、あいた、これはまずかのまいて、これはちょっと質問なせじおってくんさいのということで、だいじゃいろいろじゃなかけんが、オフレコと言われたら、やっぱりこれは言わんですね。（発言する者あり）もうオフレコと言われてぺらっとしゃべるとのおるけんですね。もうこれだけはやめましようということで、質問に入りたいと思いますけれども、いじめ等々の話はいろんな議員さんから質問がありましたので、それはやめにいたしまして、今度はおもしろいといえますか、別の観点からちょっと質問をしたい。それは何かというと、中学生の海外研修、きのう質問をされました4番議員の山口裕子議員さんからこれをちょっと貸していただきました。

（冊子を示す）

この冊子は、TPOというところのアジア太平洋都市観光振興機構というので、そのTPOの方が武雄に来られたんです。そいぎ、武雄に来て何て言われたかと。この事業の内容等々をずっと見よったら、学校間の交流、あるいは地域の交流をしたいということでお見えになっておりました。そしたら、市長もそのときに何か立ち会われたそうで、その立ち会いの中で、そいぎにや川登中学校に見に行たてんさいさて、次の日ですよ。そいぎ、電話がありまして、山口、おまえもちょっとつんのうで中学校まで行ってこいということで中学校まで行ってきました。そして、中学校の中野校長と話をしている中で、中野校長は何て言わしたかて、私は一介の——松尾初秋議員の言い方をかりれば、私は一介の校長ですもん。これは教育長にちょっと話ば聞いてくんさいさていう話なんです。そこで教育長、どういうふうにお考えなのかをお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

そんなに強権を使っているつもりはございませんけれども、私の立場から海外研修ということにつきましては、先日、文化会館でALTの人に協力してもらってクリスマスパーティーを計画されました。これ小学生が対象だったんですけれども、89名から参加してくれました。その前にも英会話クッキングということで、これにも子どもたち参加してくれました。それだけ非常に関心とか意識が高いものがございます。これは英会話ですけれども。あるいは、中学校で今、毎週水曜日に希望者ですけれども、英語スペシャリスト事業ということで英語をもっとやりたい人はということでやっていますが、これにもかなりの御参加がございます。そういうことを考えてみましたときに本当に国際化の時代、これから生きる子どもたちにそういう海外の体験をさせるということは、やはりより若いときしておく必要があるということをはっきりしているんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お尋ねではありませんが、お答えしたいと思うんですが、僕は、夏季研修ということもいいんですけれども、何か修学旅行とセットのほうが僕はいいと思うんですよ。修学旅行で手出しの出る分については、例えば、TPOの補助金を活用するとか、あるいは、これは議会の御同意がとれば、そこは応援をするということが僕はいいと思うんです。修学旅行に行って夏季研修に行くと、これは費用負担も大変ですし、ですので、それと議員さんもほとんど釜山に行かれたと思うんですけれども、武雄は場所がよくて福岡まで飛行機で釜山だと30分ちょっとなんです。ビートルでも3時間前後ですよ、たしか。3時間ですよ。しかも非常にやっぱり安いんですよ。ですので、それを考えた場合に、むしろ外国というか、隣国という意味でぜひ我々としても行政としても応援をしたいなど。先ほど教育長からあったように、やっぱり10代の半ばぐらいで異国の人とコミュニケーションがとれる、あるいはとれないというのは物すごくいい経験になると思うんです。ですので、別に国内の修学旅行を僕は否定しているわけでも全然ありません。

それともう少し、これは文科省になるのか教育委員会になるのか僕はわかりませんが、修学旅行のあり方を考え直したほうがいいと思うんです。というのは、例えば、武雄中学校を考えてみましょう。ここを考えた場合に、やっぱり全体として行くとこれ大変じゃないですか、新幹線とか。これはおかしいなと思っていて、例えば、1組、2組は韓国に行きましょうと。3、4組は例えば、自分たちで決めてこれは被災地に行きましょうと。そういう子どもたちが自発的に決めてもいいんじゃないかと。その選択肢を与えるのが我々大人の役割だろうということをやっぱり思うんです。ですので、もう少し修学旅行のあり方を今までのタブーとか固定観念じゃなくて、本当に子ども目線で、あるいは将来を担う子どもたち

が修学旅行に行ったときにどういうふうを考えるか。だから、僕、中学校のときに鹿児島だったんですよ。物すごい灰が降りました。どこも行けなかった。高校のときは京都、奈良でした。拝観停止でした。だから、薬師寺に3時間ぐらいいました。全然意味がない。京都、大阪とか大人になってから行きゃいいんですよ。ですので、もっとコミュニケーションを同世代とかの子たちと触れ合う。ですので、逆に言うと、我々が例えば修学旅行で韓国に決まったとするじゃないですか。必ず向こうからも呼びます、こっちに。呼んで、そこで行ったときに帰ったときにまた交流が生まれる。あるいは親と子の交流が生まれると、それが僕は修学旅行の意味だと。現代的な意味だというふうに思っております。教育長は一番よく御存じですので、多分やってくれると思います。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今から言おうかにはやあて思いよったとですけど、韓国、例えば、私、韓国に何回か行かせていただいたことがあるんですけども、そういう中で、例えば、慶州に行ったら何となくタイムスリップして平安時代に行ったのかな、それこそさっきの奈良じゃないですけど、奈良時代に行ったのかなというような景色なんですね。これは子どもたち絶対行っても、仮に修学旅行で行っても、それこそ下手なところに行くよりもいいのかなと本当にそう思いました。

それと、市長が今さっきおいが答弁すっぱいという話でこうしよったですけども、それとあした、きょう出発ですか、韓国の釜山の女子大の生徒さん、大学生ですよ。日本語学科専攻の大学生の、きのう山口裕子議員さんも言いよんさったです。土曜日に温泉ハイツに泊まって来るという話なんですね。そういうふうにして皆さん方それぞれに交流はなされている。そういう中で、やっぱりこれは考えるべきものであり、考えを見直すべきものであり、市長として今後の方向性を幾らかなりとも示していただければと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

慶州は、ちょっと行かれたことがない方にあえて言いますと、釜山市内、あるいは釜山空港から高速を使って1時間あります。これは新幹線、向こうでいうKTXですけども、1時間未満で着きます。慶州というのは釜山に非常に近いというのもあるんですけども、私が一番驚いたのは、高速でおりました瞬間に韓国の瓦と門が、それがゲートになっている。それですぐ通っていったときに左にガソリンスタンドがあった。それも韓国風の家屋になっている。ちょっと行ったときにコンビニがありました。コンビニも韓国風の屋根に韓国風の木

彫のがあると。家々がほとんどそういうふうになっているんですね。韓国風の。これは恐らく調べなきゃいけないんですけども、そういう政策的な意図を持ってやっていると。高い建物は建てちゃだめだそうです。一番高い建物は、慶州では古墳だそうです。——いや、これは冗談です。だから、古墳もかなり大規模なのがあって、10階建てのホテルはかなり離れた郊外にしかないんですよ。ですので、そういう意味からすると、あれやっばり百の議論より一の実行だと思いますよね。あれをもし見たときに、京都、奈良を否定するわけじゃないんですけど、京都、奈良は機会があれば行けます。しかし、慶州に行くというのはよっぼどの機会がないと、僕も最近初めて行きましたので、よっぼど機会がないと行けないということであると、そこはやっぱり僕は修学旅行とか夏季研修になるのかわかりませんが、その手はずを整える必要があると思うんですね。幸いにしてTPOの朴事務局長さんにうちの職員の森、今の監査の事務局長のおかげで——おらんのかな。彼のおかげで非常に近いつながりになりましたので、そういう人的ネットワークを生かしながら、補助金も活用しながらやっていきたい。その足りない分については、これは先ほど言いましたように議会の同意を得られればそれはちゃんと支出をしたいと思いますので、ちょっと具体的に教育委員会と制度設計を始めたいと思います。

ただし、繰り返し言いますが、これは押しつけではだめだと思うんですよ。ですので、その意味とか意義をきちんと子どもたちに理解をしてもらって、そこで自発的に韓国に行こう、慶州に行こうと、あるいは韓国釜山でもいいんですけども、釜山に行けば女子大学が全面的に応援するというふうにもおっしゃっていますので、そういったお力をかりながらぜひこれは、いずれかの中学校のクラスになるかもしれませんが、これは早いうちに実現をさせてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにいたしましても、今いろんな問題があつておりますけれども、子どもたちは何ら関係ない、大人だってほとんど関係がない、そういう中で、仲よくしようということに関しては万国共通だと思うわけですね。だからこそこういうふうな取り組みも必要じゃないかと思っております。

では、次に行きます。

これは学校教育課ばかりではなくて、全ての武雄市の中で言えることかと思っておりますけれども、臨時職員さん、嘱託職員さんという方が数多くいらっしゃいます、武雄市には。正規職員さんじゃなくて。その人たちの給与体系と伺いますか、それこそ数を数えれば切りがないですけども、いろんなケースがあるわけですね。例えば、教育委員会だけを見ても9の給与体系があるわけですね。ましてや今度はそれじゃなくて一般職の皆さん方の中を見

よったらもっと多いわけですね。いろんな方で。今回、物産まつりがありましたよね。市の職員さんの固有名を挙げて言うのは失礼かと思えますけれども、ことし1年生に入ったあれは何てついとんさっですか。北川奈津子さん、土曜日、雨の降るとき、田んなかの中から上がってきたごととんさった。田植えのときに。田植えのときに田んなかから上がってくっぎにやどがんとっですか。泥だらけですよ。ぬれて泥だらけ。この人は正規雇用の人ですよ。しかし、かといってその横ば見っぎ、臨時の雇用の職員さんもお見えですね。この人もまた泥だらけ、そのくらいに一生懸命なって物産まつりを盛り上げようという努力ばしておられました。

そこでお尋ねです。何を尋ねたいかと。一生懸命どがん仕事をして、やっぱり正規雇用の職員さんと臨時の職員さんというのは差がこうああですね。確かに財政的には厳しい今の世の中でしょう。しかし、財政的に厳しいからこそひよっとしたらこの人たちの待遇改善もしてやらんといけないのではないかと思うわけですが、これは学校教育課にも言えるし、全体的な皆さん方にも言えるわけですが、どちらでも結構です。御答弁願えれば。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非正規雇用と正規雇用の関係については、NHKさんが中心におかしいじゃないかということ、これはそのとおりだと思うんですよ。同じ仕事をしていても、一方でその倍以上を受け取る。ですので、これについてはおかしいと。ただ、その一方で、我々は皆様方の税金で非正規雇用についても正規雇用についても、もちろん我々もそうですけど、やっぱり養われているわけですよ。だから、この矛盾をどういうふうにしようかといったときに、今ちょっと御質問を承りながら考えたのは、総人件費の中で考えようと。だから、一般歳出の今、我々は厳しく2割以下にするようにという話をしているんですよ。その中でやっぱり考える必要があるだろうと。しかも、この人誰やという人もおるわけですよ、非正規雇用で。もう各課がばらばらとっているということで、これはちょっと改めたいということを思っています。

あくまでも皆さんの税金なんですよ。ですので、その思いをいたしながらやっぱり雇用の関係については処遇の問題がありますので、そこはやっぱりちゃんと見直すことが必要だと。ですので、できるだけ広義の総人件費の枠内でそういった不満が出ないように。そうすると、じゃ全部正規雇用だけにすればいいじゃないかということになるかもしれないですよ。ですので、そうなると市民負担は格段にふえます。これ退職金まで目さにはいけないうし、ですので、なかなかやっぱりこれは難しいですよ。難しいですけども、一つ一つちょっと改善案を。

ですので、私個人からすれば、みんな一旦、こういう会話を聞いたことがあるんですよ。

これは武雄市役所じゃないですよ。あるところで合格面接が、これで死ぬまで安泰ですね、公務員が。武雄市じゃないですよ。行ったときに、それをちょっと僕はあるところで聞いて、それはやっぱり間違っているんですね。民間そんな甘いもんじゃないですよ、当然。ですので、やっぱりスタッフというか、年俸制の職員が出てもいいなということ。そのかわり自発的にスタッフ職について、もうだめだったらおいとま願うか、あるいは一般職のその場に降格するというような、やっぱりもう少し硬直的じゃない選択肢のある人事制度を考えるべきだということも思ってきました。

ですので——長くなって申しわけないんですが、非常勤の職員でもとんでもなく仕事ができるやつがいるんですよ。しかし、その子たちが年収にして二百何万ですかね、物すごい安いですよ。200万円切っているかもしれないですよ。切っていますよね。だけど、正規の——これ言っちゃ失礼かもしれませんが、正規の雇用の職員よりもはるかにやる気もあるし、能力は余り差はないと思いますけど、やる気の差でアウトプットが物すごく高いといったことからすると、そういう処遇面ということを考えてする必要もあるだろうと思っています。ちょっと煮え切らないで恐縮ですけど、これちょっとかなり難しい問題ですので、我々としてももう少しちょっと時間を与えていただきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

何で私がこれを取り上げたかというたら、やる気のある人、もちろんやる気のない人は恐らく応募もされてないし、この武雄市に限っては絶対お見えじゃないと確信はしておりますけれども、やっぱりその中でも皆さん方の処遇改善は、今も市長申されたとおおり、全体枠の中で考えていただいてやっぱり資格を持っておられる方なり、いろいろこれ書いてあるんですね。これ有資格者やなからんばだめですよとか、これは一般職で大丈夫ですよとか、いろんな雇用の方法を書いてありますので、そういう中で適材適所、そして適当とは言いませんけれども、ちゃんとした報酬をとということで、これはお願いになったのかな、ということも思っておりますけれども、この件について市長にもう一遍ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それは当然重く受けとめたいと思うんですけど、もう1つ僕が疑問に思っているのは、人事院勧告なんですよ。これもタブーなんですよ。県の人事委員会も人勧並びで考える。うちも思考停止して、そのまま受け取っちゃうわけですよ。ただし、考えてみてください。武雄市と有田町じゃ全然違うじゃないですか。ましてや鳥栖市とは全然違いますよね。何でその部分を受け入れなきゃいけないんだというのはずっと思っていたんですね。僕はもともと

と反権力ですので。それ考えた場合に、自分たちの頑張りぐあいがやっぱり自分たちのお給料にはね返らないというのは、こんなの独裁国家ですよ。ですので、私は今、事務方に指示をしているのは、例えば、県の人事委員会のパーセンテージが50%、あとの50%を例えば税収の伸び率、あるいは人口でもいいです。人口でもいろんな、あるでしょう。その伸び率の部分で武雄独自の、うちは武雄短観てやっていますけれども、それを入れてくれって。徴収率もそうかもしれませんよ。そうすると、自分たちのお給料が税収にちゃんとリンクしているんだって。だから、税収が伸びているということは、皆さんたちの所得がふえているということじゃないですか。あるいは雇用がふえているということじゃないですか。そうすると、それが自分たちにもはね返ってきます。もちろんそれが雇用がだめになったりとか、あるいは税収が落ち込んでいたりというのは、市民の皆さんたちの生活が苦しくなっているということじゃないですか。それが今余りにも乖離しているので、市民の皆さんたちから公務員に対して、いや、あんたたちの給料は高かねとか言われるわけですよ。本当にそう言われるんですね。ただし、これは言うつもりはなかったんですが、数年前、私が着任したときに武雄市で調査したんですよ、中で。僕には見せてくれませんでした、その当時、執行部は。それを僕はちらってのぞき見の癖があるので見たら、職員の6割が今の給与体系に不満だと言っているんですよ。これそのまま出せるか、市民の皆さんたちに。税金で我々養ってもらっているにもかかわらずそういうことを言うということは、やっぱりお互いにとって不幸なんですよ。だから、リンクをさせるという意味で今、指示を中野総務課長と財政課長に指示を——あつ、目を伏せていますけど——していますので、それはやっぱりやっていきたいと思えます。やっぱりタブーは破んなきゃだめです。それで、やっぱり市民の皆さんたちが体感温度として納得していただくような制度をつくっていくというのが我々議会と私たちに課せられた役割だと、このように思っています。ただ、間違いがもしあったとするじゃないですか。それは修正していけばいいんですよ、修正していけば。私はそういうふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今の答弁じゃなくて先ほどの答弁で、私は市長の答弁の中ですらっと聞き流しましたけれども、聞き流して座って今の答弁を聞きながらおもしろかことを市長さっき言うたにやあて思うたとです。それは何かと。年俸制で職員ば何か出すと。今の武雄市の職員三百何人……

〔市長「390人」〕

390人、その中から私は年俸制で頑張ってみますよと言うとの何人か出てきたら、これは本当におもしろいのかなと。何か今、市長は誰かを見て指をさしていますけれども、そういうふうなこともありかなと、今から先。そして武雄市を前へ進めていく、これは本当におも

しろいかなと思っておりますので、我こそはと思う方は職員の方でも手を挙げていただきたいと思っております。

それでは、次に行きます。

私は、モニターを使うのは実は初めてなので、これ1枚しかなかとですけど、市長の政治姿勢についてということでやっていきたいと思えます。（モニター使用）

私、実はこれ言うつもり全くなかったんです。そしたら、ちょっと見てください。ここに山口昌宏議員から書いてあったけん、もうむかつきたけんが、質問をする前に言います。これは何かというと、初日目に平野議員さんの議会運営委員の辞任届が出たわけです。そいぎ、何て書いてあるか。反対の理由が不明な議員たちて書いて、議員の名前ばずらっとここに書いてあるです。見えんでしょう。もとに戻すぎにゃ、このところで議員だけしか見えん。ここが微妙なところなんですね。そういう中で、（「うまい、うまい」と呼ぶ者あり）辞任届、杉原豊喜様ですよ。議会運営委員を辞任します。平野邦夫。反対の理由が不明て書きながら、辞任の理由、全く不明じゃないですか。出したのは。まさに失礼ですよ。この失礼は許されるとしても、今度はこれ戻すぎ、「日本共産党市議団ニュース」と書いて、そしてこの辺ば見よっぎ何て書いてあるか。「病気療養中につき」て書いてある。病気療養中の人が何でこけ名前の出てくるですか。ばかにした新聞ですよ、これは。病気療養中の人が市議団として何でこれが出さるっですか。（発言する者あり）

ましてや辞任届を本会議に諮ったら、山口昌宏議員から異議ありとの意見がありて、私一人が言うたごと。私は声の高かけんが、私の声が聞こえたかもわからんです。横しんほうの人も異議ありと言いんさったです。声は低かったばったんですね。せっかく山口昌宏て書くならば、赤ぐらいで書いとってくれんですか、本当に。失礼かですよ。そして、反対の理由が不明な議員たちて、これ何ですか、これは。まさに失礼千万ですよ。（「下に武雄町も」と呼ぶ者あり）

武雄町は、今言いよんさっです、武雄町は括弧までしてある。何て考えておっどですか、本当に。そして、せめて文章ぐらい当たり前に書いてくださいよ。日程の最後にて。「議長は」じゃなし、「議長が」でしょうもん。何ば考えておっどですか、本当に。辞任届を本会議に諮ったら異議ありとの意見があり、起立に、賛成少数で否決となりましたと。そして、これに数の暴挙て書いてある。数の暴挙と言わなければなりません。何の数の暴挙ですか。議会制民主主義の原理原則は何ですか。

〔市長「こっち見て言ってくださいよ」〕

いや、書いたもんに言いよる、今のは。まさに失礼千万なんです。これは見っぎわかあでしょう。反対の理由が不明な議員たち。なし反対の理由が不明ですか。なぜかということ、私たちは、平野邦夫議員さんが欠席したのは2日なんです。そして、当初の議会の冒頭のただ3日だけなんです、欠席したのは。その欠席をされたけれども、我々は善意に考えて、平野

議員さんとは、私は江原議員さんよりも平野議員さんとのほうが議会人としてのつき合いはうんと長いわけです。その平野議員さんが病気であったならば、やっぱり全快して早う来てもらいたか。そして、議会運営委員会で我々の先輩として議会運営をしてもらいたい、そういう意味を込めて私は反対と言った。それをですね、戻しますよ。数の暴挙ですよ。（発言する者あり）

こういうふうなことってありですかね。我々は本当に善意でしたとです。ほんなごとば言いやて誰かから今言葉のあったとですけれども、そういうことを含めて（発言する者あり）

私は本当はこういうのを説明ばしてもらいたか。ところが、これは執行部に対する一般質問ですので、答弁は求められませんけれども、こういうふうなことはまさにルール違反といえますか、我々は善意に解釈してしたわけですよ。本当の中身を言いなさいてやあけん、本当の中身を言うてもよかとですけれども、そうなったら、議会運営委員を辞職するじゃなして、議員を辞職してもらわんばいかん。本当のことを私がもし言うたとすれば。（発言する者あり）言うてよかですか。

いや、実はこういうことやったです。9月議会の最終日の討論、採決の前日、朝の7時10分前ぐらいですか、電話がありました、平野議員さんから。（発言する者あり）

何ですか。

○議長（杉原豊喜君）

質問を続けてください。

○19番（山口昌宏君）（続）

そのとき平野議員さん何て言いんさったかと。おれはあの日大抵飲んどったもののう。朝ですよ。そして、委員会に出席をされた。階段も上り切らんごとして出席をされた。そして、休憩時間に、もうあんた帰んしゃいと言われて帰りよって倒れるぐらいに飲んどらした。そして次の日電話があったとき、おれはあんとき飲んでおったもののうと。これは本人さんの申告なんです。何じゃい考えておったろうというて電話があったわけですね。そのとき私が言うたことは、いや、もうあんた徹底的にやろうで思うとって。これが平野議員さんじゃなくって、もしこれが市の職員さんやったら、市の職員さんが朝から酒を飲んで、例えば、登庁をして皆さん方に迷惑をかけたら、市長はどがんすつですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お酒を飲むということ自体は、それは個人に与えられた権利ですので、それについてどうこう言うつもりはないですけれども、それが職務になるといったことでは、その度合いによっては処分ものだと思っています。これが社会のルールです。とりわけ我々政治家は、一般の例えば公務員とか一般の皆さんたちよりも重い規範を背負わなきゃいけないんですよ。

そういう意味ではちょっと聞いていて、これは僕も初めて聞きましたけど、ちょっとぐあい悪く、酔いそうです、私も。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

だから、私はこれは、いや、平野議員さん、今後のこともあるけん、だから今回は早うよくなして来てくんさいという意味を込めて私は反対と言うたことですよ。しかし、書いた本人は何て捉えたとか知らんばってんが、結局、意味もなく、理由もなく、そして戻ればこういうふうですよ。これはやっぱり謝罪文でも書いてもらわんばいかん。天下の佐賀新聞の記事でさえ、きょうは謝罪文らしきものがあつた。ましてやこういうふうなというのは本当に失礼な話なんですから、謝罪の文章でも書いてほしいなと思っております。特にここ。せめて赤で書いてくださいよ。

では、次に行きます。

私、被災地支援のことで今後どうするんですかという質問をしようかなと思っておりましたけれども、皆さん方いっぱい質問がありまして、どうしようかなと考えたときに、ちょうど12月7日に東日本でまた地震がありました。その地震の日に5時18分、その夜、仙台の大友さんに電話をしました。どがんとつながらん。そのとき車の中でしたので、ラジオを聞きよったら、混線してつながりませんよということでした。それで、その次の日の朝、大友さんから電話がありました。そして、大友さん何て言われたか。泣きながら、「本当に怖いですね。その日避難をしました。またあの日の悪夢がよみがえってきたような気持ちになりました」と言われたんです。そして、今回は幸いにして津波も1メートルぐらいだったので大丈夫だったですよという話なんです。そういうふうなことで電話がありました。

そして、その電話があつた後、大友さんどう言われたか。「ひわたし」て言いされんです。「ひわたり」市長さんと言いさつです。そして、等議員さん、朝長議員さん、上田議員さん、裕子議員さん、牟田議員さん、吉川議員さん、行った者の名前ば全部、末藤議員さんて覚えておんさあわけですよ。（発言する者あり）

言うたろう、もう。あつ、鉄ちゃんも。山崎議員さんて、行ったもんの名前全部言うて何て言われたか。自分は無事でおるけん、議員さん来てもらった皆さん方にはよろしく言うておってくださいねという伝言が私にありました。そして、最後につけ加えたのが、そこの大友さんという方のお見えの集落が140戸ぐらいあつたと。今28戸しかおらんですよ。本当に寂しゅうなつたですよ。ましてや逃げるときには今までは130戸、140戸あつた家のところでみんなで逃げたと。しかし、もう二、三十戸になったら本当にばらばらに自分1人で逃げんばらんかもわからんというような不安の中なんです。そういうふうな言い方で本当に武雄の皆さん方の顔の思い浮かぶと。ありがとうございますね。ということは、今までずつ

と質問の中であったように、この被災者支援というのは、やっぱりずっと続けていかんば被災者支援にはならんのかなと思っております。

そして、陸前高田の市長さん、戸羽市長さんですね。戸羽市長さんが何て言われたかといううぎ、物産まつりのときに一緒に売りよったわけです。物産まつりのときに一緒に売っているときに戸羽市長さん何て言われたか。今、武雄市から古賀龍一郎君と上田哲也君が行っております、陸前高田にですね。古賀龍一郎て、この人はちょっと回転の早かですもんね。あごの回転も早かです。しかし、頭の回転も早か。うちの職員がついていき切らんですもんねて言わすわけです。ああいうふうな職員の何人かおってくれたら陸前高田も助かるとですけどね。しかし、粘りはやっぱり東北人やっけん粘りはあんさあでしょう。

それで、山田係長というのが武雄市役所におられますけども、彼が何て言うたかといううぎ、もう来年ぐらえばひょっとすっぎにや市長さんもよかて言いんさっかもわからんすねて。

(発言する者あり)

うん、そがん言われたです。それで、ほかの人に聞きよったぎ、いや、そがんじゃなかですよ。ちょっとこれば見てくださいと見せらしたです。それは何かといたら、陸前高田の戸羽市長の公式文書だったです。何て書いてあったかといううぎ、古賀龍一郎君の部署に1人、そして上田哲也君の部署に1人、2人は必ず陸前高田にやっってくださいねて公式文書で来ておるわけです。それば見たとき、さすがの山田君も何も言い切らんやっした。やっぱりそれだけ武雄市の職員が重宝がられて陸前高田にとってなくてはならないと、陸前高田を立て直すためには彼らがおってくれなければいけないという戸羽市長の思いだったと思うわけですね。そこで、次のステップとして、来年度どのような方向性を持ってされようと思われているのかを御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

古賀龍一郎と上田哲也は武雄市職員のみならず、私は武雄市の誇りだと思っています。本当に評価をされているんですよ。やっぱりこれが本当の、1年間出しているというのはうちだけなんですよ。

それで、これちょっと言うか言うまいか迷ったんですがね、古賀龍一郎に打診をしたときに奥さんも職員なんです。もう泣かれましたもんね。やっぱり心配だと思いますよ。お子さんも3人いるしね。上田哲也もそうなんです。ちょうど待望のお子さんが生まれて、その本当数週間後には陸前高田に行っした。僕はいまだに忘れないんですけども、断られるかなと思って、この両人に行ってくれと、やっぱり僕の右腕を出したいと言ったときに、これ断るかなと思ったら、いまだに思い出しますけど、喜んで行かせてもらいますと。これはなかなか言えるものじゃないですよ。ですので、僕は御家族にも本当にこれだけやっぱり評

価をされているということは私自身も、その御家族の皆さんたちも誇りに思っていたと思いますし、本当に苦渋の選択だったんだけど、こうやって出向をさせてよかったと思っています。

そういった意味で、陸前高田市長からそのようなありがたい申し出がありましたので、我々としてはまた継続してお二人を。本当は立場とか関係なかったら前田副市長と僕が行こうと思っていたんですけど、それは断られました。我々2人をサポートする人が要ると言われたので、それはしませんがね。また一般職で、これがまたうれしいんですよ。行きたいという人間がやっぱりいるんですよ。これほどまた任命権者としてうれしいことはないんですよ。武雄市役所の職員を本当に誇りに思っています。

その一方で、市の職員だけじゃどうにもなりませんので、我々とするチーム武雄の皆さん、80歳を越す中山さんからまた次も行きたいということもおっしゃっていますので、陸前高田のニーズに即して、御要望に即して我々が何ができるかということも含めて、またぜひ送り出していきたいと思っています。

そして、最後にしますけれども、やっぱりこういう我々の支援モデルを全国に広めたいと思うんですよ。だから、我々いろんな首長さんとか議員さんとお話をしていると、どうい支援をしていいのかわからないという方は結構いらっしゃるんですよ、気持ちはあるけれども。だから、我々が今そういう制度をつくっているじゃないですか。チーム武雄もそうだし、職員の皆さんたちもそうだし。ですので、それをもっと広めるということが、武雄だけじゃどうにもなりませんから、ですので、それを広める役割は武雄市議会と私どもに課せられた役割かなと思っています。

そして最後に——ごめんなさい、本当に長くなって恐縮なんですけど、陸前高田市長さんからぜひと言われたんですけど、ぜひ来てくださいと。もう来たらわかりますということ、これはぜひいろんな場でも伝えてほしいということをおっしゃっていますので、また折に触れて私自身もまた行きたいなと思っていますし、ぜひ市民の皆さんたちも旅行先に同じ日本人が頑張っている陸前高田を初めとして被災地にぜひ足を向けてほしいなと、このように痛切に思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

最後に、ことしの夏、東川登の小学生10名が仙台の六郷小学校というところに車いす等々、あるいはボール等々を送って交流をするために武雄市の本当に温かい御支援のおかげで10名が行かせていただきました。その中で、行った後、子どもたちが学校で事あるごとに皆さん方に言っている言葉は、自分の——こんなきれいな言葉じゃなかったかもわかりません、強い言葉じゃなかったかもわかりませんけれども、人生観が変わったというような意味合いの

言葉を本当に発するようになった、人を思うようになった、これが事実なんです。これも本当に武雄市の皆さん方の温かい御支援と御協力のおかげだと心から感謝をしたいと思っております。

そういう中で、次にやっぱりこれで終わりだったら何にもならないじゃないでしょうけれども、これで終わりだったらあくまでもただ単に行ったよということになる。しからば次のステップに向けて、例えば、今度は仙台の小学校の皆さん方に、例えば、夏休みに来ていただくとか、そういうふうな考え方としてお持ちなのかどうか、市長なり、あるいは担当の部署でも結構でございますので、答弁願えればと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

昨年、福島郡山市でしたよね、プールで泳ぎたくても泳げない子たちを武雄市に呼んで、そこで、僕も行きましたけど、御船が丘小学校でプールに入ったりとかドッジボールをしたりとかしましたけれども、非常に喜んでおられたんですよ。そのときは親子といらっしやっただので、親同士とか子どもたち同士の交流がいまだにやっぱり続いているんですね。ことしも実は呼ぼうと思ったんですけども、九州北部の豪雨で、あちらがちょっと遠慮されて、ちょっと今回は御遠慮させていただきますということだったので、やっぱりそういう仙台の六郷小学校を念頭に置かれていると思うんですけども、やっぱり私は呼んでしかるべきだと思っております。

そして、ぜひ呼びたいと思いますけれども、その子たちに実際どうだったんだろうかと、やっぱり生の声が一番いいんですよ。しかも、子どもたちには子どもたちが話したほうが一番いい。ですので、お越しいただいたときは交流もちろん大事なんですけれども、そのときに、トラウマにならない限りですよ、本人のちゃんと承諾をとった上なんですけれども、あのときどうだったのかと。そして、前の生活と今の生活はどう違うんだとか、あるいは親の大切さとか地域のぬくもりとかというのをやっぱり子どもたちの目線で、声で我々もぜひ聞きたいし、それが一番の教育だと思います。防災といっても、なかなか子どもたちには根づきません。しかし、彼ら、彼女たちがそういうふうに体験をもとにしてお話しをいただくというのが一番の僕は防災教育だと思っておりますので、ぜひその機会はつくりたいと思います。幸いにして市民の皆さんたちの多大な御寄附もまだ残っておりますので、そういったことにもぜひ活用させていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

こういうふうなことがあって、東日本の震災があって、あるいは災害があって我々が考え

なければいけないことは、皆さん方全てが自分のことと捉えて自分たちでできる支援をやりたいと、それは武雄市民全て、あるいは県民全て、国民全てがやっぱり自分の胸に刻みながら今から先も生活をしていかなければいけないのかなと。特に今の世の中こういうふうにして気候変動もひどいので、いつ何どき何があるかわからんというのが今の世の中ですので、やっぱりそういうふうなことを含めて我々は今後も努力をしながら生活をしていかなければいけないのかなと肝に銘じて、終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。